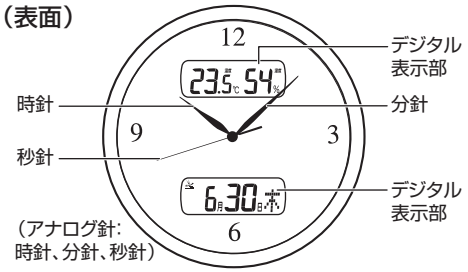
Operation Guide ITMシリーズ(E)

CASIO

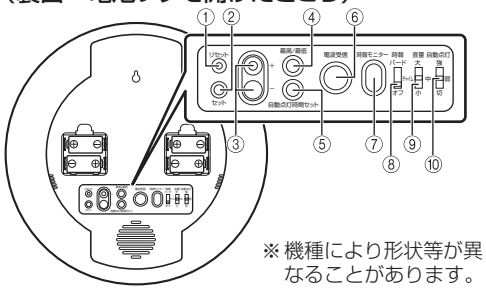
各部の名称と表示の見方

機種によりデジタル表示部に「表示用シール」をつけて出荷しております。
ご使用の前に必ずこの「表示用シール」を取り外してください。

（表面）



（裏面　電池ブタを開けたところ）



※機種により形状等が異なることがあります。

①ボタン（リセット）
電池交換後、必ず押します。

②ボタン（セット）
現在時刻などを合わせるときに使います。
押すとセット状態が切り替わります。

③ボタン（＋／－）
現在時刻などを合わせるときに使います。

④ボタン（最高／最低）
今日と前日の最高温度、最低温度、最高湿度、最低湿度を見ることができます。
押し続けると今日のデータの自動切り替えを行ないます。

⑤ボタン（自動点灯時間セット）
点灯時間などを設定するときに使います。
押すとセット状態が切り替わります。

⑥ボタン（電波受信）
押すと電波受信を行ないます（手動受信）。

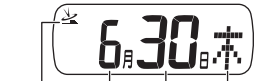
⑦ボタン（時報モニター）
押すと時報音をためしに聞くことができます。

⑧スイッチ（時報）
時報音を選ぶことができます（バード／チャイム／オフ）。

⑨スイッチ（音量）
時報の音量を３段階で選べます（大／中／小）。

⑩スイッチ（自動点灯）
照明の明るさを選ぶことができます（強／弱／切）。

●デジタル表示部の見方



●温度・湿度表示について

温度・湿度表示は時計に内蔵されているセンサーにより、時計内部の温度・湿度を計測／表示するものです。そのため、急激な変化が起きても、その温度や湿度を表示するまで（時計内部がその温度や湿度と同じになるまで）約 30 分程度かかります。なお、計測機能上、本機を冷・暖房器具の送風口の近くで使用しないでください。

★温度表示は毎分計測した温度を表示します。
※－ 20℃以下は“LO”表示、50℃以上は“HI”表示となります。
※0℃未満、40.1℃以上でも温度計測を行ないますが、本機の温度保証範囲外となります。
★湿度表示は毎分計測した湿度を表示します。
※20%未満は“LO”表示、90%を越えると“HI”表示となります。
※湿度表示は温度が5℃～45℃の範囲外では「－－」表示となります。

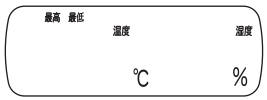
●最高／最低温度表示、最高／最低湿度表示

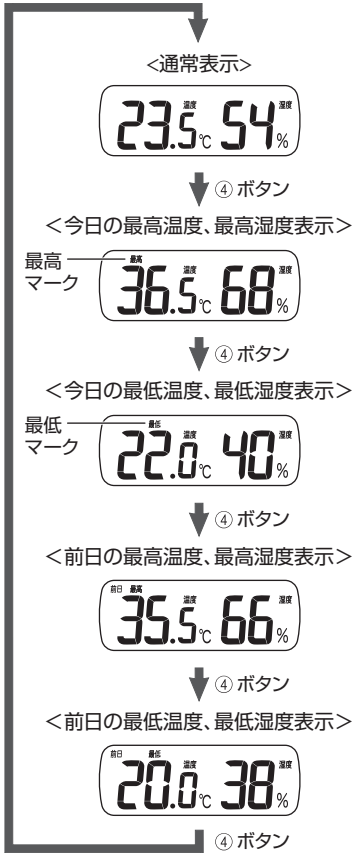
本機は計測データの中から以下のデータを自動的に記録します。
④ボタンを押すと表示を切り替えて見ることができます。

- 今日の最高温度、最高湿度
- 今日の最低温度、最低湿度
- 前日の最高温度、最高湿度
- 前日の最低温度、最低湿度

各データは毎日、夜の 12 時にリセットされます。

※④ボタンを約1秒間押し続けると表示の自動切替を行ないます（数秒間隔で表示切替）。表示の自動切替は、今日のデータのみ実行します。
自動切替が有効になったとき「最高」「最低」のマークを残して温度と湿度のデータが不灯（約２秒間）になり、お知らせします。
その後、表示の自動切替を行ないます。
自動切替を解除するには再度④ボタンを押してください。





電源について

●本機は単２形アルカリ乾電池を４本使用します。
●電池はできるだけ“カシオ指定の電池”または同等品をご使用ください。
●本機を長期間ご使用にならないときは、電池を取り外して保管してください。

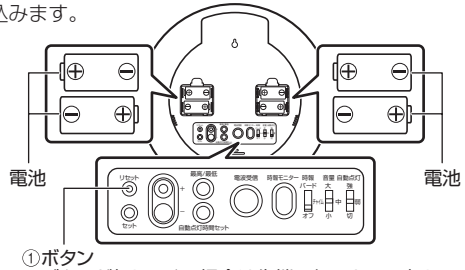
お願い

機種により付属の電池を製品に入れて出荷しております。この場合は、電池消耗を防ぐために、電池部分に「絶縁シート」をつけておりますので、ご使用の前に必ずこの「絶縁シート」を抜き取ってください。

■ 電池交換のしかた（電池は全て交換してください）

(1)電池ブタを開け、古い電池を取り出します（「●電池ブタの開け方」参照）。
(2)新しい電池の⊕ ⊖を間違えないように入れ、完全に押し込みます。
(3)電池交換後、① ボタンを押します。
(4)電池ブタを閉じます。
※ 時報等は再度セットし直してください。

（裏面　電池ブタを開けたところ）



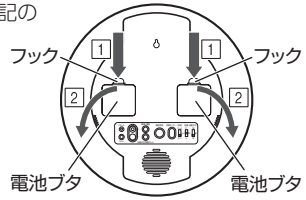
※ボタンが押しにくい場合は先端の細いもので押してください（製品を傷つけないようご注意ください）。

※機種により形状等が異なることがあります。

●電池ブタの開け方

電池ブタを開けるときは下記のように開けてください。

1 電池ブタに指をかける（フックを押す）。
2 本体を押さえながら電池ブタを外側に開く（フックを押しながら開く）。



＜ご注意＞

●電池の⊕ ⊖の向きは正しく入れてください。
●電池が消耗しますと一般的に以下のようなことが起こります。
このようなときは長時間放置せず、速やかに新しい電池と交換してください（定期的な交換をおすすめします）。
- 誤動作（時刻やアラーム等のリセット、報音の停止、時刻狂いなど）することがあります。
- 液晶表示は「薄くなったり」「消えたり」します。
- アナログ時計は「時計が遅れたり」「針が止まったり」します。

●付属の電池は充電式ではありません。絶対に充電しないでください。
●お買い上げ時に付属している電池はモニター用電池＊のため、電池新品時の電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
＊モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一飲み込んだ場合にはただちに医師と相談してください。
※電池が液漏れを起こした場合は液に触れずにすぐにふきとってください。

時報機能の使い方

時報機能をオンにすると常時点灯設定時間を除く毎正時に報知を行ないます。

常時点灯ライト機能
- 開始時刻・・・時報は鳴りません。
- 終了時刻・・・時報は鳴ります。

（⑩スイッチの、強、弱、切には、影響されません。）
時報音はチャイム音と鳥の鳴き声があります。

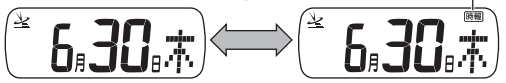
●時報のオン／オフ

⑧スイッチで切り替えます。
バード／チャイム／オフ（バードまたはチャイムで時報マークが点灯します）。

＜時報オフ＞　　＜時報オン＞

⑧スイッチをスライドさせる

時報オンマーク



スイッチをオフの位置にします。

スイッチをバードまたはチャイムの位置にします。

●時報音の切り替え

⑧スイッチで時報音の切り替えができます。

バード	時報が鳴ります。 音は7種類の鳥の鳴き声からランダムに選ばれます。 鳥の種類 アカショウビン、カッコウ、コルリ、ウグイス、クロツグミ、ホオジロ、イカル
チャイム	時報が鳴ります。 音はウエストミンスターチャイムです。
オフ	時報は鳴りません。

●時報音量の選択

時報の音量を３段階で選べます。
⑨スイッチで切り替えます。

●時報をためしに聞くには

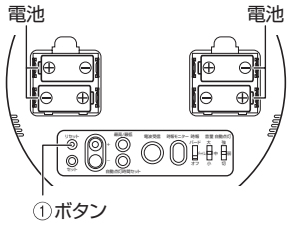
⑦ボタンを押すと時報を１回聞くことができます。

本機の使い方

本機ご購入後初めて使用するとき、および電池交換後には、以下の手順で操作を行なってください。
※本項目と共に「電波時計について」を合わせてお読みください。

1 電池を入れます

電池ボックスに⊕⊖の向きに注意して、電池を正しく入れます。



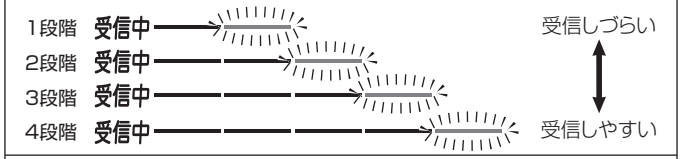
2 リセット操作を行ないます（①ボタンを押します）

➡デジタル表示が「午後 12：00 00」となります。
また、アナログ針が 12 時の位置まで自動的に送られます。
※電池交換を行なったあとは、必ずリセット操作を行なってください。

3 本機を使用したい場所に置きます

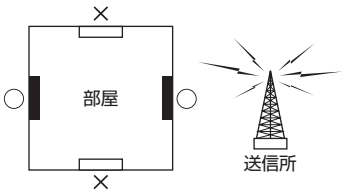
デジタル表示が「午後 12：00 00」、アナログ針が 12 時の位置になると、自動的に電波受信を開始して時刻修正を行ないますので、窓際などできるだけ電波受信しやすいところに置いてください。
※受信中は受信インジケーターで受信状態をお知らせします。

<受信インジケーター>



*受信開始後、受信状態により段階的に変化します（4段階）。
*受信しやすい場所でも4段階まで表示するのに約10秒程度かかります。
*天候、時間、環境等により電波の状態は変化します。
*受信インジケーターは受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。

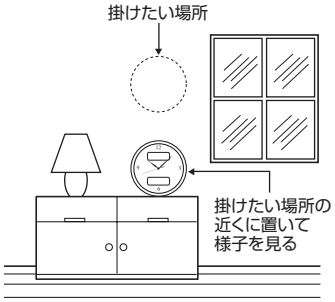
図①



部屋を上から見たところ

※電池投入後（リセット後）、最初の受信のみアナログ針は 12 時位置に止まったまま行なわれます。またデジタル部は時刻を表示します。
2 回目以降の受信では、アナログ針を運針させたまま行ないますが、受信しやすくする為、多少ずらして運針します（1 秒以内）。
またデジタル部は「月・日・曜日」を表示します。
※1 回の受信は約 2 ～ 16 分間（リセット直後は約 4 ～ 16 分間）です。
※受信中にボタン操作を行なうと受信を中断しますので、受信中はボタン操作を行なわないでください。

図②



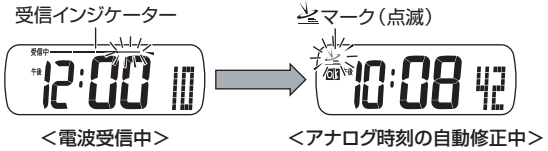
<ご注意>

●お掛けになる場所は、窓側などできるだけ電波が届きやすいところに送信所と壁面の向きを考慮して選んでください（右図①）。
●電波受信の様子を見る場所は、お掛けになりたい場所のできるだけ近くに同じ向きにして置いてください(右図②)。

➡ **受信成功**

デジタル部… すぐに正しい時刻に修正されます。また、OKマークおよび📶マークが点灯して受信成功をお知らせします（アナログ部の修正中は、時刻表示を行ない、その間📶マークは点滅します）。
アナログ部… 正しい時刻の位置まで針が自動的に進みます。
- アナログ時刻が 1 分前後で進んでいた場合は、その間針は停止します。
- 時刻修正が完了するまで、最大 5 分程度かかります。
- 📶マーク点滅中は、手動受信を行なえません。

※受信成功後、テレビや電話サービス等の時刻と本機の表示する時刻を照合してください。
※場合により「時」「分」「秒」のみ正しく表示されることがありますが、その後受信に成功すれば「月」「日」「曜日」も正しく表示されます。



<電波受信中>　<アナログ時刻の自動修正中>

※正しい時刻の位置までアナログ針が自動的に進みます。
（修正終了後、📶マークが点灯表示となります。ただし、「時」「分」「秒」のみ修正された場合は📶マークは点灯しません。）

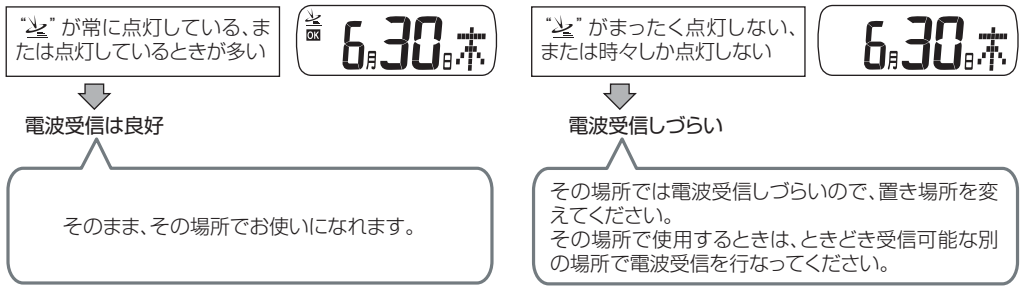
➡ **受信できない** … 時刻修正は行ないません。
数分後に受信は止まります。
※このときは、本体の向きや置き場所を変えて⑥ボタンを押して、もう一度受信開始させてください。
※⑥ボタンを押さなくても「午後 2：01」になると再び自動受信を開始します。

●手動受信
⑥ボタンを押すと、電波受信が開始され、受信インジケーターが表示されます。
※一般的に送信所からの距離が近い方の電波が受信しやすいと考えられますが、電波環境や使用場所によっては、送信所からの距離が遠い方の電波が受信しやすい場合があります。
※電波受信が全くできない場合でも、月差± 30 秒の精度で計時します。

受信できない場合でも、翌日に電波受信に成功することもありますので、しばらくそのままにしておいてください。

4 1～2 週間電波受信の様子を見ます

本機は午前 2:01 ／午前 3:01 ／午前 6:01 ／午前 10:01 ／午後 2:01 ／午後 6:01 ／午後 10:01（計 7 回／日）に受信を行ないます。

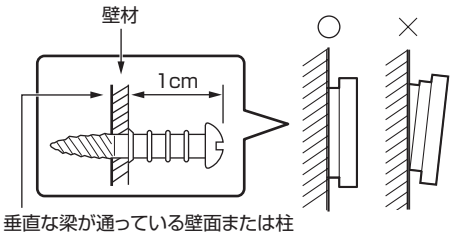


5 本機を取りつけます

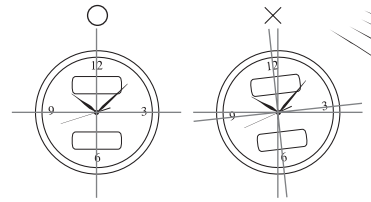
※受信の様子を見た場所とお掛けになった場所で、電波受信に差が出る場合があります。

<時計の掛け方について>

●ネジを垂直な梁が通っている壁面または柱にしっかりネジ込みます。
●下図の様に時計を正しい姿勢で取りつけます。

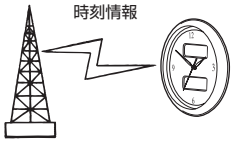


垂直な梁が通っている壁面または柱



電波時計について

●電波時計とは



正確な時刻情報［日本標準時］をのせた長波標準電波（JJY）を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。

日本標準時：日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。
この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。

電波時計は正確な日本標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

●標準電波

標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所」（40kHz）および佐賀県と福岡県の境の「はがね山標準電波送信所」（60kHz）から送信されています。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信中断されることもあります。

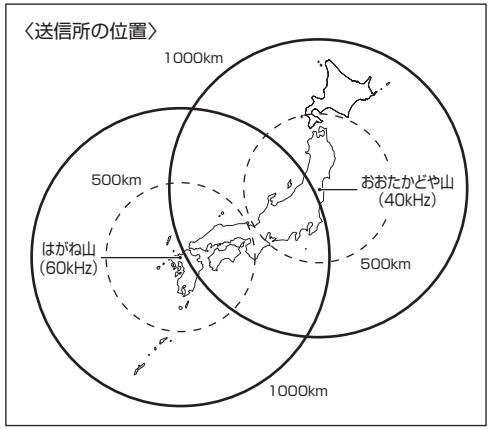
●電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおよそ1000km離れた場所でも受信することができます。

※ただし、約500kmを超えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

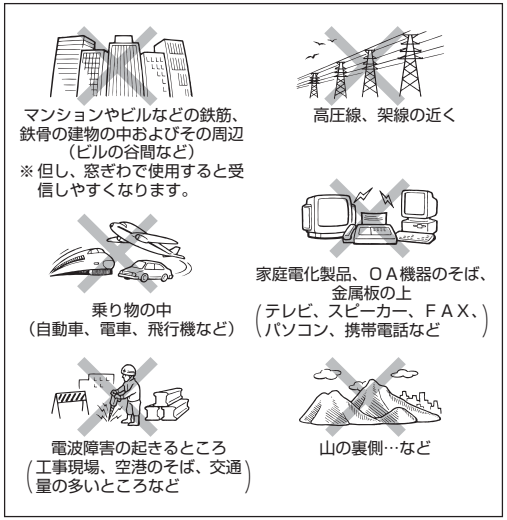
※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼／夜）などによって受信できないことがあります。

※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

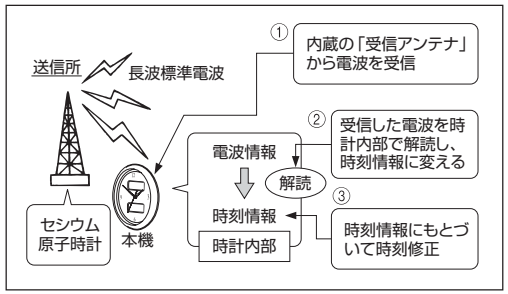


●使用場所について

本機は、テレビやラジオなどと同様に、電波を受信するものです。本機を使用するときは、「電波を受けやすい」部屋の窓際などでご使用することをおすすめします。以下のような場所では、電波受信しにくくなりますので、このような場所は避けて本機をお使いください。



●受信のしくみ



●電波受信について

本機は「おおたかどや山標準電波送信所」（40kHz）と「はがね山標準電波送信所」（60kHz）の2局より受信しやすい方の電波を自動的に選択し受信を行ないます（自動選局機能）。通常は7回/日電波受信を自動的に行ないます（自動受信）。

※1回の受信は約2～16分間（リセット直後は約4～16分間）です。

※受信に成功すると、すぐに正しい時刻を表示し、アナログ時刻の修正を開始します。修正中は マークが点滅表示され、修正が完了すると点灯表示となります。

OKマーク…最新の電波受信が成功していることを表します。
※次回受信時に消灯します。

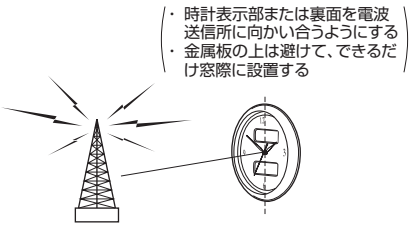
マーク…1日1回以上、電波受信が成功していることを表します。
（正しい時刻が表示されているかどうかの目安になります）
※ただし、受信成功していても午前2時と午前3時になると一度消灯します。その後受信成功すると、再び点灯継続します。

＜正しく受信するために＞

○電波受信できる場所でお使いください（「●使用場所について」参照）。

○本機を電波送信所方向に向けると、受信しやすくなります（本機に内蔵されている受信アンテナと電波送信所が垂直方向になるようにすると、最も受信しやすくなります）。

最も受信しやすい設置のしかた



○受信中（受信インジケーター表示中）に時計を動かしたりボタン操作をしないでください。なお、受信中に ⑥ ボタン等を押すと、受信を中断します。

＜ご注意＞

○ボタンを使って現在時刻を修正すると、以後24時間自動受信は行ないません（マークは消灯します）。ただし、この間に ⑥ ボタンを押して手動受信を行なうと、その時点で解除されます。

○電波受信を行なわない間は、平均月差±30秒以内の精度で計時します。

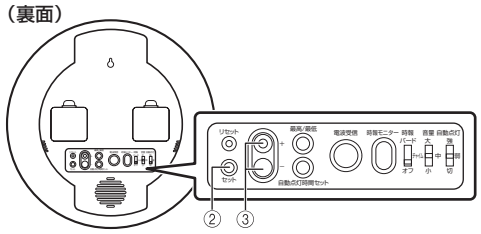
○電波障害により、誤った信号を受信することがあります。

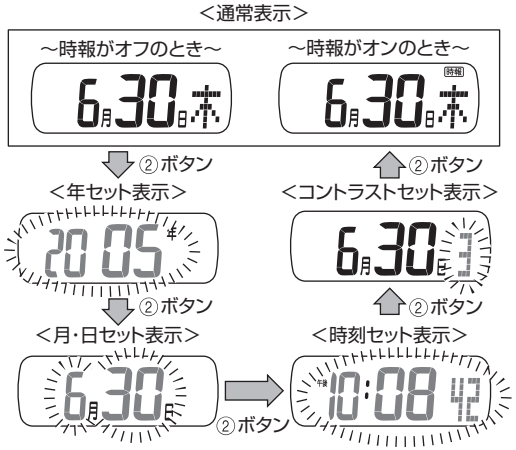
時刻の合わせ方

電波受信により、時刻修正できないときに以下の操作を行なってください。
以下の操作で時刻を修正すると、修正後24時間は自動電波受信は行ないませんので、ご注意ください。

1 ②ボタンを押します(セット表示へ切り替える)

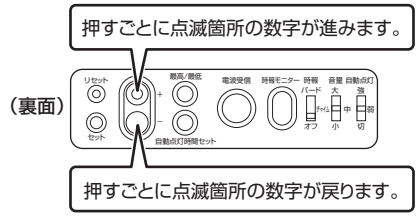
②ボタンを押すごとに以下の順に表示が切り替わります。





2 ③ボタンでセットを行ないます(時刻等のセット)

③ボタンを使って、現在時刻などを合わせることができます。



※<コントラストセット表示>以外で、それぞれ押し続けると早送り／戻しができます。

- 年は2000年～2099年までセットできます。正しく年月日をセットすると、自動的に曜日が算出されます。
- カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。
- <時刻セット表示>のときはボタンを押して分を進めた（戻した）タイミングで00秒になります。
- <コントラストセット表示>のときはボタンを押すごとに数字が１つずつ進み（戻り）、濃度が８段階で調整できます（リセット操作後は２になっています）。

１　薄い　←・・・２・・・→　濃い　８

3 ② ボタンを押します (通常表示へ戻す)

セットが終わりましたら、②ボタンを押して<通常表示>に戻します。

※ セット表示で何も操作をしないと、約３分後に自動的に<通常表示>に戻ります。

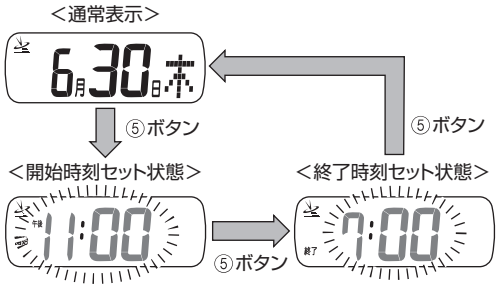
常時点灯ライト機能の使い方

夜間の暗いときでも時刻を見やすくするため、ライトを常時点灯します。

- 開始時刻と終了時刻を設定することにより自動的に設定した時間を常時点灯にすることができます。
- 明るさ（強／弱）を設定することができます。

●点灯時間のセット

⑤ボタンで点灯時間（開始時刻、終了時刻）のセット状態に切り替えます。
開始時刻、終了時刻のセットは、③ボタンで行ない、時単位のセットとなります。最大23時間のセットが可能です。同一時刻がセットされた場合は、自動点灯時間無しとなります。



自動点灯時間を長めに設定しますと、電池の消耗が大きくなりますので8時間を目安に設定することをおすすめします。初期状態は、開始時刻は夜11：00、終了時刻は朝7：00にセットされています。

常時点灯の設定と電池寿命の目安

1日当たりの点灯時間	照明の明るさ	
	強	弱
8時間	6ヶ月	12ヶ月
12時間	4ヶ月	8ヶ月
16時間	3ヶ月	6ヶ月
20時間	2ヶ月	5ヶ月

●点灯機能のオン／オフ

⑩スイッチで切り替えます。

強（オン）… 点灯時間になると、自動的に常時点灯を行ないます。明るく照らします。

弱（オン）… 点灯時間になると、自動的に常時点灯を行ないます。光量を落として照らします。

切（オフ）… 常時点灯は行ないません。

●秒針停止機能

秒針が00秒の位置で止まります（時針、分針は通常通り動きます）。
お休みの間、秒針のコチコチ音が気にならなくなります。

秒針が停止している時間

- 秒針の停止は常時点灯ライト機能で設定した開始時刻、終了時刻と同じです。

秒針が停止するのは以下のいずれかの場合

- 常時点灯ライト機能がオンの場合（⑩スイッチが強または弱の場合）
- 時報機能がオンの場合（⑧スイッチがバードまたはチャイムの場合）